

東ひろしまの遺跡

Vol.14

郷 1 号遺跡を発掘しました

郷 1 号遺跡 (高屋町郷)



写真 1 発掘作業風景

郷 1 号遺跡は、独立丘陵上に位置する、弥生時代～古墳時代の遺跡です。過去の発掘調査では弥生時代後期の^{たてあなじゅうきょ}竪穴住居跡、^{よこあなしきせきしつ}横穴式石室の古墳等を検出しています。

今回の調査では、多量の弥生土器のほか、縄文時代の遺物の可能性がある石器が 1 点出土しました。石器に伴う遺構は発見できなかったのですが、断定は難しいところですが、非常に興味深い出土品です。

また、一か所から集中して出土した弥生土器たち…この場所はいったいどのように使われていたのでしょうか？まだまだ、郷 1 号遺跡の歴史は深いように感じられる発掘調査となりました。

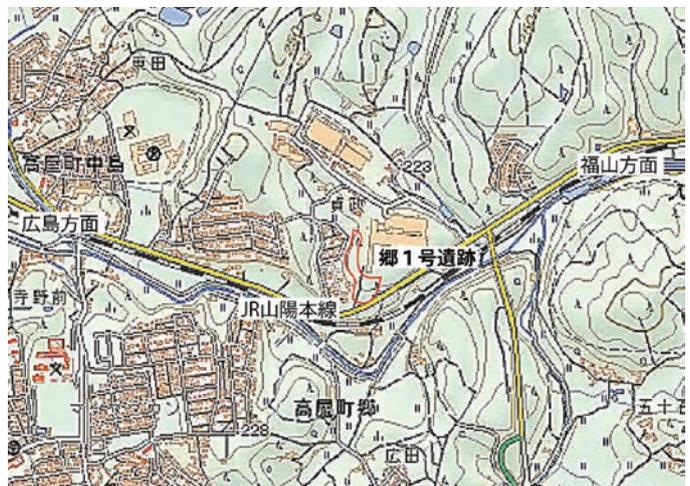


図 1 郷 1 号遺跡の位置図

美ノ越第1号古墳

『賀茂郡史』に「みの越とよぶあたりにも箱式石棺墓がみられる」として紹介されていますが、調査の結果、墳丘の一部を残して大部分が大きく壊れ、削られていることが分かりました。

墳丘規模は直径9 m程度の円墳であったと想定できます。埋葬施設である箱形石棺の床面には厚さ約6 cmの黄土色の粘土が貼られており、石棺を構成する石は既に存在しませんでした。



写真4 美ノ越第1号古墳（南東から）

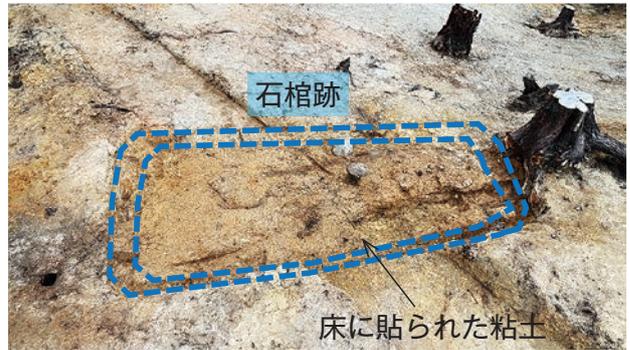


写真5 箱形石棺床面粘土検出状況

美ノ越1号遺跡

表面に露出していた石材もありましたが、表土をはぎ取ると、下から多くの石が見つかりました（写真6・7）。その中には、自然石を配置した集石遺構（写真8）や、墓標と見られる立石と供物台と見られる平石がセットになったお墓と考えられる遺構（写真9）も存在します。また、火葬骨が出土する墓壙も検出されており、今後の整理作業の進展によって、この地域の葬送について考える資料になるかも知れません。



写真6 現場作業風景



写真7 大量の石材



写真8 集石遺構



写真9 立石と平石

レッツ！謎解き！！考古学

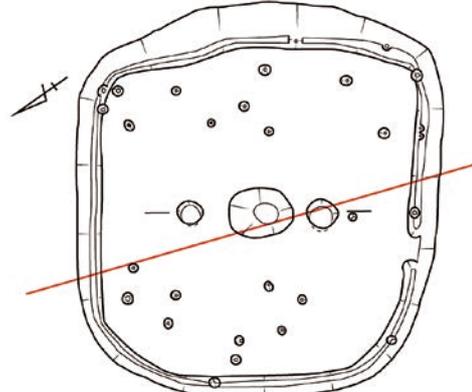
～焼失住居編（小越遺跡 志和町志和東）～

出土した遺物や遺構をどう解釈するか。焼失住居を題材に考えてみましょう！



写真 10 焼失住居検出状況

- ・小規模な焼失住居。（竪穴住居跡：面積 6.6 m²）
- ・ほぼ完全に復元できる壺形土器、甕形土器、鉢形土器がまとまって 17 点出土。
- ・焼け落ちた柱や屋根材が大量の炭となって残っていた。



赤のラインで切って横から見ると

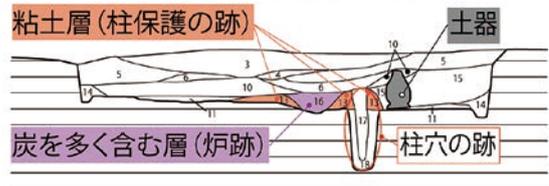


図 3 竪穴住居跡の実測図と土層断面図

※上図は文化財センター調査報告書第 15 冊小越遺跡発掘調査報告書を抜粋し、加筆・修正しました。

<事実から分かること>

- ・ 1 軒の住居で同時に使用されていた土器の数を知ることができる。
- ・ 弥生時代後期前半の一括資料。
- ・ 柱材や壁板等とは異なる円柱状の木材が床の上に乗った状態で焼けていた。（写真 10 赤丸部分）
- ・ 柱の周りには、粘土が貼られていた。

<事実から考えられること>

- ・ 家財道具を持ち出せていないため、留守中の失火、落雷等の焼失などが考えられる。
- ⇒意図的に住居を燃やして廃棄したわけではなさそう？
- ・ 柱の周りの粘土は、炉の熱から柱を保護するためのものだったか。

<さらに考えられること>

- ・ 円柱状の木材（材質：マツ）は「まな板」と考えられる。なお、屋根の垂木や柱はすべてクリ、壁板はケヤキが使用されていた（樹種鑑定結果より）。

このように、考察を重ねながら埋蔵文化財は復元されます。みなさんも東広島の遺跡をレッツ！謎解き！！

東広島市出土文化財管理センター報
東ひろしまの遺跡 Vol.14

発行日 2024（令和 6）年 3 月 27 日
発行 東広島市出土文化財管理センター
〒739-2201 東広島市河内町中河内 651 番地 7
TEL:082-420-7890 FAX:082-437-0320
編集 東広島市教育委員会生涯学習部文化課
E-Mail hgh207890@city.higashihiroshima.lg.jp
印刷 一般財団法人東広島自立支援センターあゆみ

※センター報内の地図はすべて「電子地形図 25000（国土地理院）」を加工して作成しています。